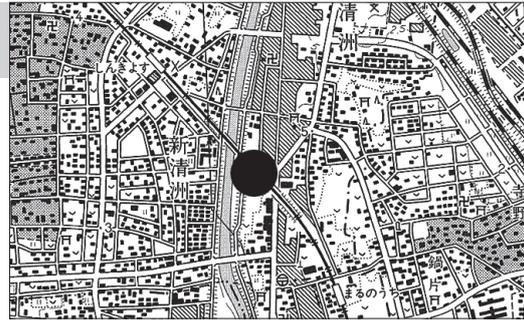


きよ すじょうか まち
清洲城下町遺跡

所在地 西春日井郡清洲町
調査理由 五条川河川改修
調査期間 平成12年12月～13年3月
調査積 1,800 m²
担当者 赤塚次郎・洲寄和宏・蔭山誠一



調査地点 (1/2.5万「清洲」)

調査の経過 清洲城下町遺跡は五条川中流域に形成された自然堤防と後背湿地上に立地する古代から近世の複合遺跡である。五条川改修に伴う事前調査として、愛知県建設部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、今年度は五条川の左岸名鉄名古屋本線南側のA区(800 m²)と右岸県道67号線清洲橋北側のB区(1,000 m²)を調査した。

調査の概要 A区は南部地区の南側に位置し、62 D区・63 D区の西に隣接する調査区で、標高1.0 mにて遺構検出を行った。遺構は、城下町期後期に属する溝1条、土坑2基と62 D区・63 D区から続くS X 8001が検出された。この中でS X 8001西側の遺構上端を確認し、その一部に人頭大の円礫が縦列に6個並んだ石列を検出した。S X 8001の東西幅は約23 mとわかった。S X 8001の出土遺物には、16世紀後半から17世紀初頭までの瀬戸・美濃産陶器、伊万里磁器、常滑甕などがみられ、他に平瓦、巴文軒丸瓦、銅銭、銅製品、鉄鏃、鉄製刀子、漆椀、五輪塔、桶のタガ、曲物、杓子、下駄、犬の頭骨等の獣骨、貝殻などがある。埋土の上部において桶のタガや曲物が10 m程離れてほぼ同位置レベルにて出土し、城下町期後期の井戸の可能性はある。

B区は本丸地区北端に位置する調査区で、標高2.5 mにて遺構検出を行った。遺構は城下町期に属する堀状の落ち込み、土坑などを確認した。堀状落ち込みは、本丸跡から北に3本目の内堀の可能性はある。

まとめ 今回の調査によって城下町期後期における南部地区の大型土坑状遺構(S X 8001)が、その地形的特徴を活かした利用状況を推定できるようになった。遺物の出土状況なども含めた町屋の復元研究において重要な資料を提供できたものと思われる。(蔭山誠一)



00 A区南側全景



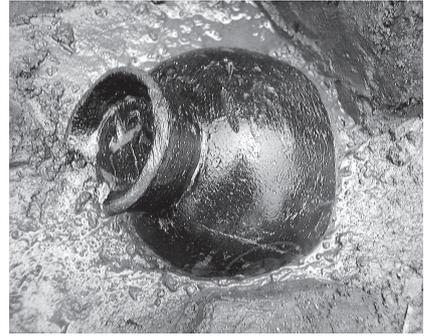
石垣出土状況



S X 8001 出土の曲物



S X 8001 出土の軒丸瓦



S X 8001 出土の漆塗椀



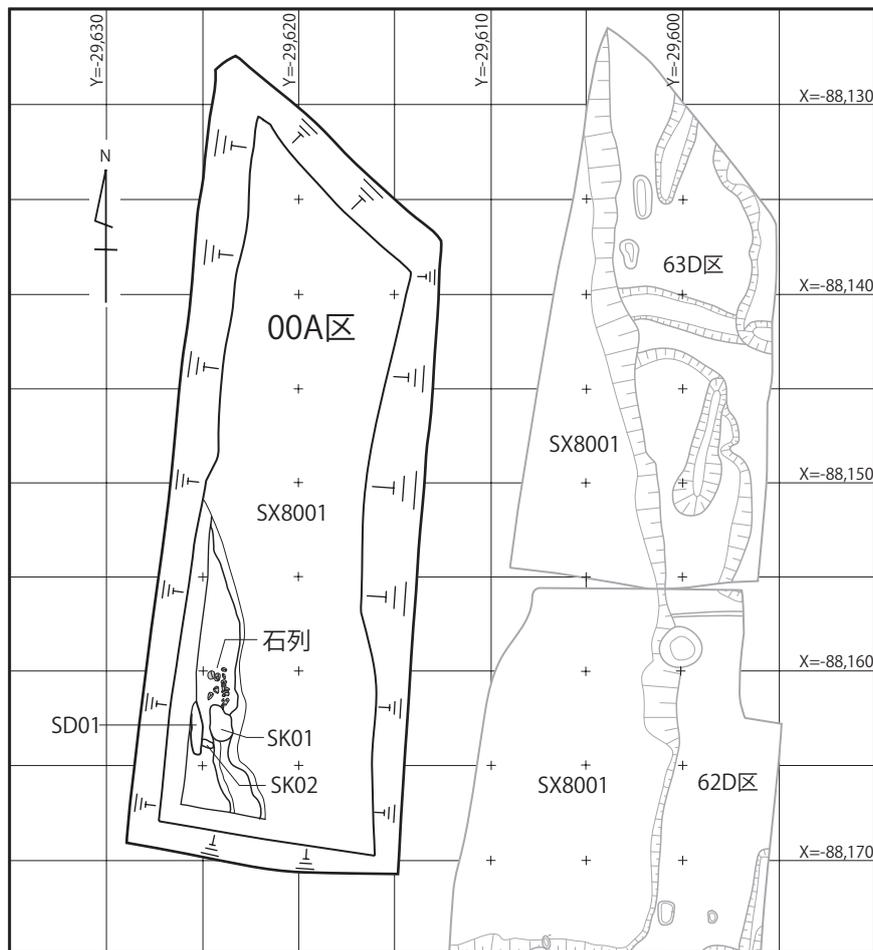
S X 8001 出土の茶入れ



S X 8001 出土の天目茶碗



S X 8001 出土の鉄絵小皿



00 A区遺構図 (1:400)